

危機の時代を見据える

藤原辰史・パンデミックを生きる指針—歴史研究のアプローチ
北原和夫・教育と学術の在り方の再考
高山義浩・新型コロナウイルスとの共存—感染症に強い社会へ
黒木登志夫・日本版CDCに必要なこと
村上陽一郎・COVID-19から学ぶこと

パンデミックに向き合う

飯島渉・ロックダウンの下での「小さな歴史」
ヤマザキマリ・我々を試問するパンデミック
多和田葉子・ドイツの事情
ロバート・キャンベル・「ウィズ」から捉える世界
根本美作子・近さと遠さと新型コロナウイルス

コロナ禍と日本社会

御厨貴・コロナが日本政治に投げかけたもの
阿部彩・緊急事態と平時で異なる対応するのはやめよ
秋山正子・訪問看護と相談の現場から
山口香・スポーツ、五輪は、どう変わるのか
隈研吾・コロナの後の都市と建築

コロナ禍のその先へ

最上敏樹・世界隔離を終えるとき
出口治明・人類史から考える
末木文美士・終末論と希望
石井美保・センザンコウの警告
酒井隆史・「危機のなかこそ亀裂をみだし、集団的な生の様式について深く考えてみなければならぬ」

杉田敦・コロナと権力

藻谷浩介・新型コロナウイルスで変わらないもの・変わるもの
内橋克人・コロナ後の新たな社会像を求めて
マーガレット・アトウッド・堀を飛び越える

村上陽一郎 監編
Yoichiro Murakami
生きている
コロナ後の世界を
—私たちの提言



岩波新書
1840

今私たちは、未経験な状態のなかで、暗中模索している。しかし、ことは、今、この災禍をどう乗り越えるか、というところに留まらない。この災禍をどのように乗り越えたとしても、その次にやってくる社会は、今までとは違ったものにならざるを得ないだろう。

(編者の言葉)